

報告日 令和7年1月8日
報告回次 1日目

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	青森県			代表者名	知事 宮下 宗一郎
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	総合政策部DX推進課	連絡先電話番号	017-734-9163
担当者役職	主事	担当者氏名	四戸 康晴	連絡先E-mail	
住所	030-8570 青森県青森市長島1-1-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名（予定）	データ連携基盤共同利用ビジョン推進事業		
概要	データ連携基盤共同利用に関する知識習得（助言、指導など）				
支援を求める分野	オープンデータ 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） その他				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
対応日・時間	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年12月25日	支援・助言(実地)	9時00分	16時30分	60
				活動時間（分）	390
2-2.	会場名	青森県庁	最寄駅	青森駅	
派遣場所	所在地	青森県青森市長島1-1-1	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	大木 一浩
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	防災や子ども子育て分野において、他自治体の事例や最新の情報に精通しており、幅広い知識をお持ちの方からの確かなアドバイスをいただきました。特に、データ連携方法に関して技術的な内容を含めて多角的に見直す方法を具体的に示唆していただいた点は非常に参考になりました。また、専門的な内容を事例をもとに分かりやすく説明していただき、大変助かりました。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	3人	
	属性 自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数 3			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的に記入下さい）	防災分野や子ども子育て分野において、データ連携基盤の共同利用を検討していますが、具体的に実現可能かどうかはまだ分かっていません。また、サービスへのデータ提供方法についても、技術的な判断や考慮すべき点があきらかにない状況です。特に、都市OSのパーソナルデータ流通基盤の活用に関しては、県が市町村と連携して共同利用を検討する必要があります。しかし、県と市町村でパーソナルデータの取扱いや具体的な業務の範囲が異なっていることが課題となっています。さらに、自治体のネットワークが三層分離となっていることもデータ活用に関する検討を行う際の理解や議論の妨げとなっています。
支援により目指す成果（具体的に記入下さい）	住民サービスを検討する際に、その実現可能性を判断できるように、職員のスキルアップを図ります。これにより、データ連携基盤の調達を検討する際に（現時点では基盤導入は未定）、選定に必要な知識を身につけ、導入後の問題を回避するための体制を整備します。また、県が整備すべき特定テーマ（防災・子育て）のサービスのあり方を明確にし、県と市町村との連携の位置付け・役割を整理します。さらに、庁内システム連携の技術的観点とサービスの実現可能性についても具体化していきます。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	事例をもとに、市町村データ(特にパーソナルデータ)との連携に関するシステム全体の構成についての注意点や考慮点を理解しました。また、ネットワークの三層分離について、データ連携に必要な基礎的な内容も把握できました。Webクロールなどでのデータ取得事例における注意点も学びました。さらに、防災分野と子育て分野の間での連携について、更なる検討が可能かどうかについてディスカッションを行いました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	パーソナルデータ流通基盤の理解が深まり、防災や子育てといった特定テーマでの活用に関するさまざまな留意点も把握されました。また、全庁DX推進の観点からのコンセプト設計が進められ、庁内システム連携の技術的実装とサービス実現可能性も明確になりました。 具体的には、以下の内容が解決されました。 - データ連携基盤導入におけるパーソナルデータの取り扱い注意点 - 市町村システム(例:健康管理)、電子医療記録(PMH)、母子手帳アプリ間でのデータ連携方法 - 情報発信(例:LINE等)のデータ連携方式 - 母子手帳アプリの他自治体での事例に関して注意点 - 防災DXにおいて、要支援者データと子育てDXのデータを連携する可能性 - 防災DXには、ガス、電気、水道、通信などのインフラ情報の取り込みも必要である 以上の内容を踏まえて、今後のデータ連携基盤の導入とその具体的な運用が見通せるようになりました。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていないなし(県作成の検討資料に対するコメントのみ)
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	今回のコメントを受けての検討資料の再レビュー	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今後の方針検討に生かすため、多彩な分野・テーマでアドバイス・助言をいただく形式で実施したため、アンケートは実施していない。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する R7年度、市町村のパーソナルデータを含め、県民向けサービス提供に関して、サービスおよびデータ連携基盤について詳細な内容を検討する。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	課題・問題が残っているため未定	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

掲載可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

